昆虫類　＜トンボ目　トンボ科＞　　愛知県：絶滅危惧ⅠA類（国：絶滅危惧ⅠA類）
INSECTA　＜ODONATA　LIBELLULIDAE＞　　AICHI：CR　　(JAPAN：CR)

ベッコウトンボ　*Libellula angelina* Selys

【選定理由】

旧市町村単位の絶滅率は100%、現存数は0であり、絶滅危惧ⅠA類に相当する。

県内に確実な生息地は存在しない。

♂. 常滑市西阿野, 2004年4月24日, 安藤 尚 撮影

【形　態】

翅の基部と結節に顕著な黒褐色斑があり、ずんぐりした毛深い中型のトンボである。

和名は未熟成虫の体色が鼈甲色をしていることに由来する。

【分布の概要】

【県内の分布】

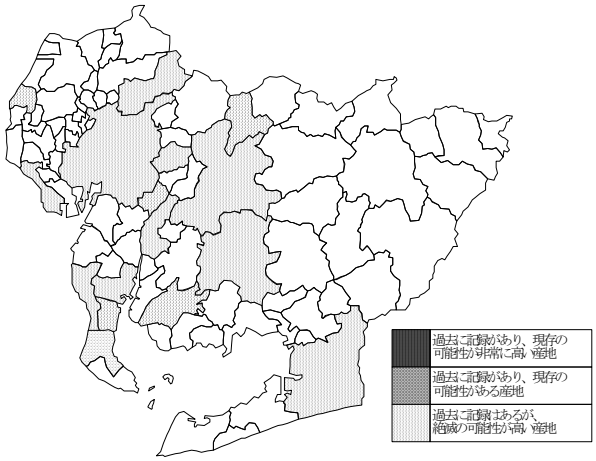
尾張～三河の平野部を中心とした16市町村（旧市町村単位）で記録されている。

【国内の分布】

本州東北部から九州南部にかけて記録されている。

【世界の分布】

朝鮮半島、中国に分布する。



県内分布図

【生息地の環境／生態的特性】

成虫は、抽水植物が繁茂して泥深く、開放的な池沼に生息する。幼虫は、水中の枯れたヨシ等の堆積物につかまっていることが多い。羽化は4月に始まり、成虫は5月の短期間に集中的に見られる。1年1化である。

【現在の生息状況／減少の要因】

愛知県では1998年以降、本種の記録は途絶えていたが、2004年に常滑市で産地が発見された。造成後10年ほどの調整池で、他の水域とほぼ隔離されており、天敵が少なかったことが生き残りの要因と推測された。しかし、同産地では2005年以降、1頭も確認できなくなった。池の植生消失などの環境悪化はなかったが、本種と入れ替わるようにアメリカザリガニが大発生したことから、ザリガニによる幼虫捕食が絶滅の原因と推定された。

【保全上の留意点】

1）幼虫の生息域となる抽水植物の堆積物の確保
2）成虫の休息域となる水域周辺の草地と灌木の茂みの確保
3）幼虫／成虫を捕食するアメリカザリガニや外来魚の移入禁止

【特記事項】

1994年に種の保存法に指定された最初の昆虫であるが、生息環境の悪化には歯止めがかからず、指定後も日本中で産地を減らし続けている。

現在、中部地方以東の確実な生息地は静岡県磐田市だけである。同地は地元関係者による保護活動で何とか生きながらえている状況である。浜松市の養鰻場跡地にも現存していたが、常滑市と同様、アメリカザリガニの大発生と入れ替わるように姿を消した。

本種は植生の消失などの環境破壊、そして外来生物の捕食圧に弱いが、それらがない環境ならば、人工的な池でも生存可能である。静岡県の保護活動などで本種を生かすためのノウハウが蓄えられたものの、愛知県にはそれを活かすための種となるベッコウトンボは存在しない。

（吉田雅澄）